

令和元年度 つぼみ保育園事業報告書

つぼみ保育園 園長 大藤正美

1. 保育所の運営

①定員 195 名に対し、毎月初日の在籍児童数は下記表の通りである。

年度当初のスタートでは、幼児クラスの応募者がおらず店員を割ってのスタートとなった。近隣に新しい保育園が出来た事も影響していたのかと思われる。年度途中の入れ替わりもあり店員数を満たしていた月もあるが、幼児クラスで退園者が出ると、待機児童もおらず減員のままで定員が埋まらない月もあった。

年間を通して 0 歳・1 歳・2 歳児の入園希望の見学があり、常に待機児童があるという事と保育園探しに翻弄している育児休暇中の保護者がとても多かった。

保育実人員 定員 195 名(3 歳未満児 70 名 3 歳児以上 125 名)														
定員	年齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
10	0 歳	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
21	1 歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
39	2 歳	39	39	39	39	39	38	39	39	39	39	39	38	466
41	3 歳	39	39	39	40	40	41	41	41	41	41	40	40	482
84	4 歳	41	41	41	41	41	42	42	42	42	42	42	42	499
	5 歳	40	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	469
195	合計	193	192	192	193	193	194	195	195	195	195	194	193	2324
職員数		44	44	44	44	45	44	43	44	45	45	45	45	

外国籍家庭

両親中国 19 人 要支援家庭 1 件

母フィリピン 2 人(母子家庭) 要支援家庭 1 件

父バングラデシュ 2 人

両親ネパール 1 人

父イタリア 1 人

母韓国 1 人

ひとり親家庭

母子 15 家庭

父子 1 家庭

疾病要件預かり

母精神疾患 6 家庭

父精神疾患 1 家庭

②職員の異動については、下記表のとおりである。

A.新規採用者(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	職 種	氏 名	性別	採用年月日	備 考
1	保育士	A	女	平成31年4月1日	常勤
2	保育士	B	女	平成31年4月1日	常勤
3	保育士助手	C	女	平成31年4月1日	非常勤
4	保育士	D	女	令和元年7月1日	常勤
5	保育士	E	女	令和元年8月1日	常勤
6	看護師	F	女	令和元年12月9日	常勤
7	用務員	G	女	令和2年1月21日	常勤

B.退職者(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	職 種	氏 名	性別	退職年月日	在職年数	退職理由
1	看護師	H	女	令和元年7月31日	10ヶ月	一身上の都合
2	保育士	I	女	令和元年9月30日	6ヶ月	病気治療の為
3	保育士助手	J	女	令和元年11月30日	1年1ヶ月	病気治療の為
4	保育士	K	女	令和元年3月31日	4年	保育士以外の転職
5	保育士	L	男	令和元年3月31日	4年	保育士以外の転職
6	保育士	M	女	令和元年3月31日	6年	他園へ転職
7	保育士	N	女	令和元年3月31日	3年	一身上の都合
8	保育士	O	女	令和元年3月31日	6年	出産の為

2.保育内容報告

保育目標：のびのびと いきいきと

(集団保育を通して、やさしい心と丈夫な体、個性ある人格を培う)

0歳児 ひよこ組 【感覚機能を刺激し、生活全体のバランスを高め、安定を図る。】

- ① しっかりと抱っこされて、心地よいあやし言葉をかけられ、喃語を多く出させ、言葉の基礎を作っていく。
- ② 無理なく離乳食を食べられるようにする。
- ③ 身体の発達を助ける働きかけを受けながら、歩行開始をする意欲を引き出し援助する。

1歳児 ひばり組 【情緒の安定を図り、社会的行動の始まりを大切に見守って行く。】

- ① 歩行を完成させる。
- ② 模倣活動を通して、基本的な生活習慣を身につけようとする気持ちを引き出して育てる。
- ③ 遊具を豊富に自分の手で使用し、保育者からの豊かな話しかけを聞くことによって、言葉を育てる。

2歳児 かなりや組 【ここの子どもの気持ちを大切にしながら、生活習慣の自立を助けまた、保育者や友だちとの関係を広げつつ、運動機能や言語活動のめばえを助ける。】

- ② 自分でしようとする気持ちを養いながら、基本的な生活習慣が身につくようにする。
- ② 屋外遊びや、遊具で遊ぶ機会を多くし、手・足・指先をたくさん使って運動機能の発達を図る。
- ③ 一緒に行動したり遊んだりする中で、言葉のやりとりを楽しむ。
- ④ 保育者が仲立ちとなって生活や遊びの中で、言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤ いろいろな素材を用いて遊ばせ、表現することの楽しさを育てる。

3歳児 すずめ組 【生活経験をより豊にし、社会性を育てる。】

- ① 子ども同士の関わり合いと、遊びの内容を広げて言語活動を活発にする。
- ② 自分の身体を自分でコントロール出来るよう、基本的な運動機能をより発達させる。
- ③ 食事・排泄・衣服の着脱など日常的な身の回りのことを大体自分でできるようになる。

4歳児 つばめ組 【全身を使った自発的活動を十分させ、体力と自主性を養う。】

- ① 集団での遊びを組織化することによって、遊びの楽しさを十分味わえるようにする。
- ② 自分の気持ちや意見を相手に伝え、自分で考え行動できる力を養う。
- ③ 楽しくなるような遊びを考えていくことによって、知的意欲を高めていく。

5歳児 はと組 【意欲的に活動し、集団の中で自立と強調の芽を育てる。】

- ① 自己主張がはっきり出来、感情表現を豊にする。
- ② 自分以外の相手を認め、気持ちを察しようとする事が出来るようになる。
- ③ 社会性をより一層高め、幼児期から学童期への成長を促していく。

◎各クラス少人数での保育への取り組みを意識した保育を心がけた。

特に0歳・1歳・2歳児クラスは、日々の生活の中、小集団で活動する事を意識し、中でも2歳児の取り組みは、2019年6月の東京都保育大会においても事例発表させて頂いた。

しかし、5歳児は、職員の配置の都合上2名のみでの担任配置しかできなかったため、日常的に小集団を作ることが出来なかったが、保育園全体の取り組みとして、出られるクラスから応援に行き、出来るだけ少人数での生活環境を作るようにした。

◎各年齢に保育目標に沿って、子どもの情緒が安定した生活ができるような環境に配慮し、またひとりひとりが自己を十分発揮して、積極的に活動できるよう保育実践を心がけた。

児童ひとりひとりがそれぞれに大きな成長を遂げ、主体形成に少しずつ近づくことができた。

3月に入ると、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、登園自粛の要請もあったことから、登園しない園児も出てきて、最後の保育が経験できない子ども数名いた。

◎行事は、年間行事予定に従い行う事が出来た。年長組のお泊まり会が台風に遭遇し活動内容の変更はあったものの、無事に帰ってくる事が出来た。

年明けからは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、発表会・卒業式は縮小し、保護者の参加制限を設けるなどし、保護者の理解を得ながら進めて行く事が出来た。

現在も継続中であるが、大人数の職員集団の中でいかに共通理解を深め、意識を高めていけるのか。という問題意識を常に抱えていたと思う。12月ごろより、この職場をどうしていきたいのかという園長からの発信にこたえる為、職員数名から広がり保育園全体で「みんなの会議」という名の下、話し合いがなされ少しずつ問題解決に向かおうとする姿が見られてきた。改善するところは改善し、より保育内容を充実させ、保育士のやりがいに繋がるよう職員としての集団性が高まるようにしていきたい。

3.延長保育（午後6時30分～午後7時30分迄の保育）

常勤保育士1名・非常勤保育士1名・調理員1名・保育士ローテーション1名

定員30名である。年間を通し契約していた人数は定員より少なく20名前後であったが、スポットでの利用家庭がとても多く30名近い日もあった。毎日利用するほどではないが、仕事の内容によって月初・月末のみの利用を希望する状況であった。

延長保育ならではの保育内容の充実もあり、子ども達は延長保育をとて楽しみにしている姿があった。

異年齢での関わりの為、延長保育組の連帯感もあり日常の保育の中での関わりも多く生まれお互いに思いやる姿が見られた。

4.障害児保育

令和元年度在籍した障害児は6名であった。

- 0歳児 ダウン症候群
- 2歳児 先天性多発性関節拘縮症
- 3歳児 発達遅滞
- 3歳児 自閉症スペクトラム
- 5歳児 ヌーナン症候群
- 5歳児 先天性両側低形成腎・腎不全

個々人の成長に合わせた保育を心がけ、集団の中に取り込まれていくことが多かったが、0歳児のダウン症児と2歳児の先天性多発性関節拘縮症児は、常時保育士が傍にいないといけない状態だった。2歳児の先天性多発性関節拘縮症児は3月1日付で引っ越しの為退園となった。他の子ども達は、時には保育士と1対1だったり、小集団を作ったりしながら保育をしていった。

5歳児2名は、地域の小学校に入学をした。

上記の子ども達の他に、明らかに気になる子どもも在園し、子ども家庭支援センターやかかりつけの医師などによる経過観察中の子どももいた。

障害児をもつ保護者からの問い合わせ・見学・入園希望もとても多い。看護師が在籍していることで医療的配慮の必要なお子さんをお持ちの保護者からの問い合わせが多い。

今後とも子どもの環境を整え障害児のみならず全ての園児により良い保育を行っていきたい。

5.給食

- ① 安心・安全な給食を心がけ、栄養士・調理員・看護師・各担任・主任・園長と毎月献立会議を開き、食育活動も含めて計画を立てていった。
(野菜ちぎり・鮭の解体・食材の購入・小松菜・ラディッシュの栽培と収穫・鰹節と昆布の出しの違い・目の前で調理・4歳児による自分たちのご飯のお米をとぐ等)
- ② アレルギーのある児童に対しては、医師・看護師・栄養士・担任・保護者と連携をしながら、個人に合わせた献立を作りアレルギー物質を摂取しないよう、普通食献立と見劣りしないよう配慮していった。
誤食に繋がるミスはなかった。今後も作業中の確認作業から始めマニュアルに沿った行動をとり事故に繋がらないよう気を引き締めていく。
- ③ 保育参観で保護者にも給食を食べて頂き味付けや料理方法を実感したり、献立表とは別に給食だよりを毎月一回発行し人気メニューのレシピを載せたりすることで、保護者に更に分かりやすく給食内容を知らせ、興味を持ってもらうことができた。

6.健康・保健

① 児童

【内科検診】

乳児健診(0歳児13名)毎月1回園医の恵仁堂医院山上先生による健康診断の実施
全園児のために、年2回5月・10月園医の恵仁堂医院山上先生による健康診断を実施。
健康診断当日欠席した児童や乳児は翌月の健診で受診するなどし、全園児の健康管理に努めた。

【歯科検診】

年1回6月園医の小野寺歯科医院小野寺先生による健康診断を実施。当日欠席した児童は後日小野寺歯科に連れて行き受診し、全園児の健康管理に努めた。

【視力検査】

年1回11月4歳児・5歳児対象に看護師による視力検査の実施。数名の視力の発達に問題のある園児を発見し、眼科受診へ繋げた。その結果数名の視力矯正の必要が認められ眼鏡を使用する事になった。

【手洗い・うがい指導】

2歳児以上対象に季節や状況にあわせ、各クラスを周り看護師が指導し、手洗いうがいの励行に努めた。

【歯磨き指導】

2歳児以上対象に6月1月の年2回各クラスを周り看護師が指導し、正しい歯磨きの仕方を伝え歯の大切さを周知していった。

【発育測定】

全園児クラスごとに担任が身長と体重を量りカードに記入し保護者に確認してもらい、児童表に記入。

② 職員

【定期健康診断】

全職員 5 月 10 月年 2 回園医恵仁堂医院山上先生による健康診断の実施。

【予防接種】

園医恵仁堂医院山上先生に来て頂き、10 月に全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。

【検便】

毎月 1 回全職員が小岩健康サポートセンターに依頼し、赤痢菌・サルモネラ菌・病原性大腸菌(O-157)の検査を実施。全員異常なしだった。

今年度は看護師の 2 名体制でスタートするも、途中で 7 月末日に 1 名退職したが、12 月には新規採用で 1 名増やせたので、何とか保育をすすめることが出来たのはとても良かった。

保健指導について、手洗い・うがい・歯磨き・視力等工夫をしながら子ども達の年齢にあわせて保育の中で知らせていった。

今年度も、4 歳児・5 歳児を対象に【いのちのはなし】をする時間を設けた。

5 歳児は産道をイメージしたトンネルをつくり、その中を通る経験もして様々な過程を真剣に聞いていた。

4 歳児には少し難しかったかと思うが、次年度への布石として話を聞く経験が出来た事は良かったと思う。

大きく体調を崩す子どもはいなかったが、保護者の勤務の都合上しっかり休むことができず、ぐずぐずと体調の悪さを引きずる子どもが多かったように思う。

病児保育はしていないので、忙しい保護者の思いも受け止めつつ、子どもが健康的により良く過ごせる環境づくりに励んでいきたい。

7.実習生・ボランティアの受け入れ

①実習生

保育士

学校名	学年	人数
東京こども専門学校	2	2
淑徳大学	4	1
彰栄保育福祉専門学校	1	2
大妻女子大学	2	1
東京家政大学	2	2
東京教育専門学校	1	1
こども教育宝仙大学	3	1
彰栄保育福祉専門学校	1	2
	計	12

看護師

首都医校	2	9
	計	9

栄養士

華学園栄養専門学校	2	2
東京家政大学短期大学部	2	6
	計	8

②チャレンジ・ザ・ドリーム(中学生職場体験)

江戸川区立小岩第2中学校	2	5
江戸川区立小岩第3中学校	2	5
江戸川区立上一色中学校	2	5
江戸川区立鹿本中学校	2	5
江戸川区立春江中学校	2	4
	計	24

③ ボランティア

東京家政短期大学栄養科	1	6
江戸川区ボランティアセンター 高校生	1	1
大妻女子短期大学食物栄養専攻科	1	5
江戸川区子育て支援員研修		1
	計	13

上記の受け入れを行った。保育士の仕事は増えるが、将来の人材育成と人材確保も視野に入れ丁寧に関わることで、自らの保育に対する振り返りにもなるので、今後とも積極的に受け入れていきたい。保育士採用の確保の為、実習生に声をかけたみたが、すでに決まっている学生が多かった。1年生のうちに声かけが必用だったのかもしれないが難しい。

8.意見や問い合わせ

※第三者委員の方への問い合わせはなかった。

※1家庭、職員の挨拶で返してくれない職員がいると子育て支援課に連絡が入り確認の連絡がきた。

保護者の話の様子で、職員の特定が出来たので、個人的にも園全体の職員にもきちんと挨拶をすることを再度指導した。

※令和2年度入園予定の1家庭保護者より、3月に新入園予定保護者をお願いしていた、入園前健康診断を指定の園医で受ける事を、新型コロナウイルス感染による不安から受けたくないと、相談があり「これは決まりなので受けなければいけないものです。」と説明しましたが納得できず、子育て支援課へ相談されたが、同じ答えだったのに納得できなかったようで、区長への手紙に投稿され子育て支援課でも頭を悩ませる事案へと発展した。園医の山上先生に相談し、ご理解を頂き3月の乳児健診の時に、その家庭に来園してもらい入園前健診を受けてもらった。保育園に来るのは良いが、どこの病院にもこの時期は行きたくないとの事だった。

今年度は、第三者評価を受けていないが、日々保育園に対して信頼を寄せていただけているよう、今後

も日頃から保護者とのコミュニケーションを積極的にとるよう心がけていきたい。

9.職員研修

本年度も、外部研修を充実させることを目的とし様々な研修に全員が参加出来るようにした。園内研修は、「みんなの会議」として、以下の内容について全員で話し合った。

12月12日 行事について

1月31日 休憩時間について・会議の持ち方について

外部研修

江戸川区認可私立保育園乳幼児食事研究会	
保育園の給食について	1人
食物アレルギーの基本『ヒヤリハットから学ぶ安全管理と緊急時対応』	2人
調理実習『大量調理のコツ』	1人
日本人の食事摂取基準 2020年版理解と活用	1人
食育計画の立て方	1人
江戸川区認可私立保育園園長会研修	
乳幼児保育における発達において語彙力を伸ばすコミュニケーション方法	1人
アタッチメントの重要性	1人
食べる力の育ち	1人
子どもの体幹を育てる	1人
子どもの造形表現を支える保育者の視点	1人
施設見学『松本おひさま保育園』	1人
【リーダー層研修】	1人
保育の質を安全から考える	1人
上記を受けてのグループディスカッション	1人
江戸川区子ども家庭部子育て支援課	
「模擬災害」を体験しながら学び、災害行動を身に付ける	1人
育ちあう集団作りを保育の柱にする	1人
子どもと一緒に楽しむわらべ歌やお話し遊び	1人
東京都社会福祉協議会保育士会 主任部会	
主任同士の交流と役割を深める	1人
講演 今井和子氏 「主任の役割について」	1人
講演 掛札逸美氏 「保育現場の安全に何故コミュニケーションスキルが必要か」	1人
グループ討議	1人
他園との意見交換	1人
講演 多田純也氏 「被災地の今」	1人
東京都社会福祉協議会保育士会 保育部会	
保育の悩みを共有して学ぶ	1人

保育の悩みを事例を通してみんなで考える	1人
同上	1人
保育の悩み「環境」について考える	1人
保育の悩み「乳児期の食事の進め方について」みんなで考える	1人
室内遊びの充実について	1人
施設見学報告	1人
自由保育とは	1人
東京都社会福祉協議会保育士会 給食部会	
アレルギーについて	1人
授乳・離乳の支援ガイド(改訂版)の理解と保護者支援	1人
東京都社会福祉協議会保育士会 看護師部会	
他園看護師との交流と園での業務充実を図るためには	1人
講演 「噛む力を伸ばす支援」	1人
保育所食育サポート	
離乳食についての疑問や調理方法を学ぶ	1人
東京都民間保育協会	
新任職員研修	1人
社会福祉法人 日本保育協会	
食育・アレルギー対応研修会	1人
キャリアアップ研修	
幼児教育	1人
保護者支援・子育て支援	1人
障害児保育	1人
保健衛生・安全対策	1人

計 43 名

職員数が前年度よりも少なく、研修に出られない時もあり例年になく少ない参加人数になってしまった。研修参加者はレポート提出と職員会議で報告をし、全職員でレポート閲覧と押印し情報の共有化に努めた。

10.非常災害危機防止等防災訓練の実施状況

①避難訓練

月 1 回訓練を行い、火災・地震等の災害を想定し、その状況に応じた誘導や避難することの重要性を確認しあった。

②交通安全

11 月に、ぶどうの部屋にて江戸川区交通安全課による 4 歳児・5 歳児を対象に交通安全について興味を持たせ、ルールを守ることの大切さの指導を受けた。

また、職員も不審者対応を小岩警察安全課のかたに来て頂き講習を受けた。

水害についての避難訓練が出来なかったことは大きな反省である。

11.その他

①近隣の苦情について

*夏に園庭で水遊びをしていた時、いつもより大胆に遊んだことで子ども達の声も大きくなり
「いつもより楽しそうですね。お声が大きいですよ。」と電話で注意を受けた。

②令和元年に実施した主な購入や修理等

料理室フライヤー購入

NTT サーバー一式購入

室外機修理

防犯カメラ修理

12.資金収支

「令和元年度決算書」参照